

林道大平多線の状況確認及び大森山捲き道の調査

◇実施日 4月8日(火) 晴れ

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎 2名

林道大平多線については、昨年3月21日に大森山ガレまで確認したが、同12月に玉置辻から備崎までの道標等の調査を行った際、大森山から下った分岐(「この先ガレ 通行不能」の標識)から大森山巻き道に向けて新しい赤テープが付けられているのを見た。

大森山の巻き道について少し調べてみると、次のようなことが分かった。①森沢義信氏の「大峯奥駈道七十五摩」には「江戸時代の奥駈道は、大森山に登らず稜線南側の巻き道をたどっていたらしい。」との記述がある。②故前田勇一氏から玉岡初代世話人代表に宛てられた昭和五十五年十一月二十八日の書簡には、「大森山の捲き道の改修」などが重要な仕事と書かれている。

新宮を7時56分に出発、林道大平多線(起点)に入り、甲ヶ森南肩登山口までは昨年と同様に車は進入できたが、それ以降は落石等を除去しながら進むため、林道(終点)までの約6・6kmに約1時間50分を要した。

すぐに登山靴に履き替え出発、赤テープが続けて付けられており、大森山巻き道と思われる道に合流、石積みの道が現れ林道(終点)から約24分で、大森山から下った分岐(「この先ガレ 通行不能」の標識)に出た。道は一部狭い箇所もあるが概ね歩きやすい道だ。

ここで早めにパンやおにぎりで昼食をとり、引き返すことにした。合流箇所まで戻り、沖崎代表にはここで待機してもらい、一人でその先へ入り進むとガレ上部に至った。ここまでも石積みの道が数か所残っていた。ここで引き返し合流箇所から二人で林道終点へと戻った。

往路と違い時間もあまりかからずに大森山ガレまで来ると、なんと法面の右岸にロープがあるのを見つけた。どうやらここを登り降りしていたようだ。南奥駈道の大平多山分岐直下を通りすぎた所で、足場跡を沖崎代表が見つけ、登ってみることにした。1分もかからず尾根に上がると木にピンク色のテープが巻かれていた。まずは大平多山分岐(南奥駈道)まで往復し、下降点に目印のテープを付け足して石を積み、沖崎代表が足場跡に補助用のロープを取り付けた。林道(終点)まで順調に戻り、復路での車での移動は約41分だった。この林道は甲ヶ森南登山口から終点までの道の状況次第で所要時間が大きく変わる。往路と同じ道で帰り新宮には15時5分に着いた。(記：湯川)

行動タイム

大平多線(起点) 08:50→09:03 大森山ガレ 09:08→10:40 大平多線(終点) 10:53→10:57 巻道合流 10:57→11:17 南奥駈道合流 11:40→12:07 巻道分岐 12:07→12:33 ガレ(上部) 12:34→12:58 巻道分岐(戻り) 12:58→13:03 大平多線(終点) 13:10→13:24 足場跡 13:24→13:32 大平多山分岐(南奥駈道) 13:33→13:40 足場跡(ロープ取付) 13:50→14:17 大平多線(起点)

【確認できた事項】

・甲ヶ森南肩には篠尾からの道、玉置川（十字路・一の鳥居方面）への道がある。

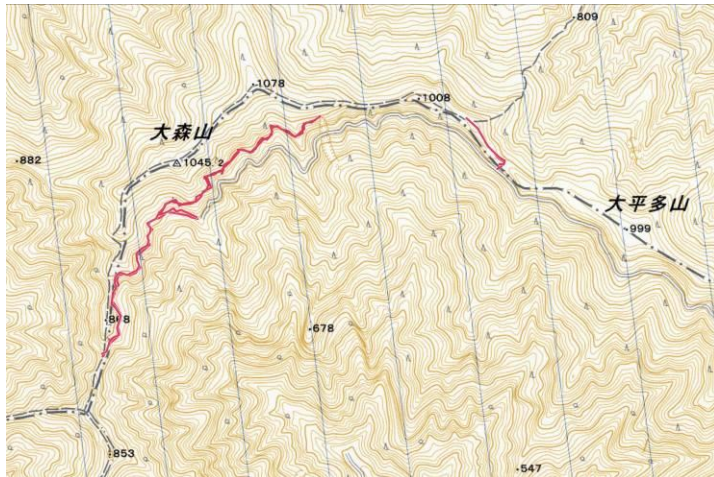
・林道（終点）から南奥駆道までの所要時間は約24分、赤テープも連続してあり迷う箇所はない。

・林道から大平多山分岐までの所要時間は約8分。

【林道大平多線通行にあたり留意する事項】

・小型の車高が高い車で、オフロードタイヤが望ましい。現時点では四駆でなくても通行はできる。

・単独での乗り入れはしない。（必ず複数人で）



五大尊岳（南峰）～大平多山
（赤線が今回調査したルート）



石積みの道が随所に残っている



落石がいたるところにある



南奥駆道合流箇所（巻き道分岐）



倒木はこの1本だけだった